

麻生区区民会議 第1回環境部会

(議事要旨)

1. 日 時 平成20年10月17日(金)午後1時25分から午後4時50分まで
2. 場 所 麻生区役所第1会議室
3. 出席者 天野委員、伊藤委員、碓井委員、神本委員、山崎委員、渡邊委員
(事務局)太田区長、荻原企画課長、重森主査、稲葉
4. 傍聴者 0人

1 正副部会長の選出について

部会長に「伊藤委員」、副部会長に「山崎委員」を選出した。

[部会長進行]

2 調査審議課題について

委員から提案があった課題とその課題に関する現状をまとめた資料について事務局から説明を行い、課題解決に向けた具体的なアイデアについて委員で討議を行った。主な意見は、次のとおり。

～ 環境部会のあり方について ～

- ・麻生区という街をどのようにしていくかテーマを打ち出した方がよいのでは？ そうしないと人々にビジョンができないので、行動に移せない。区民に問題提起をしてメッセージを出さなければいけない。
- ・川崎市の小中学校が冷暖房化された政策を例にとると、熱中症予防になる一方、CO₂の排出の問題もある。「いいこと」と思われることでも両面があるので、個別に検証が必要だ。
- ・過去に区民会議と似たような形で「区づくり白書」が作られた。これまでの経緯をリセットしてゼロから始めるのではなく、それらを踏まえた議論・実践をした方がよい。
- ・「区づくり白書」はまちづくり市民の会が作ったが、区民会議がまちづくり市民の会と同じことをやっても意味がないので、重複した議論は避けるべき。
- ・2年間でやれる実現可能性のあることを議論していく方がよい。
- ・大きなことをやるためには、規模からして区民会議だけでは無理。区民を巻き込んで別の専門機関を作るべき。
- ・区民会議として多くの区民に影響を与えることを行っていくのであれば、町会長を通じて地権者と話し合わなければいけないが、区民会議と地権者が合意するべきレベルをどの程度に設定するかが問題。
- ・区民会議は市民運動の「最初の一步」であるべきか、「恒久的・波及的なもの」であるべきか

～ 麻生区の環境に関する意見交換 ～

- ・レジ袋有料化は小田急OXだけで、広がっていないのが問題。麻生区の全店で実

施すべき。

- ・麻生区の緑はあと10年でなくなると言われている。それをどうするのか。
- ・高齢化により、誰も耕さない荒れた畑が存在している。
- ・都市農業は経済的な問題があるので、存続するのは不可能。
- ・麻生区は緑が多いといわれるが、実は開発が行き届かなかっただけだと思う。
- ・緑を守るといっただけであれば、お金がある人が買い取ってしまえばよい。問題は
いかに地域が自分たちの問題として動けるように持っていくか
- ・町会を通じて緑を守る基金を創設してみても？イギリスではナショナル・トラスト
()が根付いている。

ナショナル・トラスト・・・歴史的建築物の保護を目的としてイギリスにおいて設立されたボランティア団体。正式名称は「歴史的な所と自然的景勝地のためのナショナル・トラスト」。イギリス政府の公的機関であるイングリッシュ・ネイチャーやイングリッシュ・ヘリテッジらと協力し、自然遺産・文化遺産を守るため、寄付を募り、これを財団、NPO、NGOなど税制上有利となる組織を通じて使う手法によって、対象の維持・保全・未来への引継ぎを図る、行政組織に働きかけ、経済上・行政上・法制上の手法を工夫することにより、対象の維持・保全・未来への引継ぎを図る、といった活動を行っている。

【議論のまとめ】

区民会議が、「エコのまち」といったテーマや高い理念を掲げてからそれに向けた行動を呼びかけていくのか、理念等は特に設けず現実的な方向性を示していくべきか、は今後の検討課題となった。

環境部会を進めていくにあたり、区民会議とは別の専門機関を設置し調査・審議するのか、既存の枠組みのみで進めていくのかは今後の検討課題となった。

3 その他

(1) 川崎市民アンケートについて

アンケート結果の内、区民会議に係る箇所について、事務局から説明を行った。

(2) あいさつが交し合える地域づくり事業について

第1期区民会議から提案のあった「あいさつが交し合える地域づくり事業」について事務局から説明を行い、都市型コミュニティー活動で成功事例等となるものの情報提供を部会員に依頼した。該当する事例の情報がある場合には、10月23日(木)までに事務局まで連絡をお願いしたい。

(3) 第2回環境部会の日程について

11月13日(木)午後1時半から行うこととし、開催場所については、後日事務局から連絡することとした。